㊻とっとりコミュニティ財団

地域のミライをみんなでつくろう！
ミラ・クル・とっとり運動

若者のチャレンジを応援

鳥取県内外からの寄付を基に県民の活動を広く応援する事業を展開。若者の思いを形にする応援プログラムを打ち出し、地域活性化の一助となっている。

全国で注目を集めている地域住民の力で地域を支える「コミュニティ財団」の仕組みを県内にも導入。新たな制度で将来の地域の担い手を応援しようと、クラウドファンディングで集めた資金を基に昨年4月に一般財団法人として発足。同12月に公益財団法人となった。

主な事業が若者チャレンジ応援プログラム「とりまね」の運用だ。12～25歳の若者を対象に、最大5万円の活動資金と伴走支援するサポーターを提供し、若者の「こんな取り組みをやってみたい」との思いを具体的な企画として形にする後押しを行っている。

公募と審査を毎月実施。これまでに地域交流を促進する書道カフェや農業体験ツアー、巨大アート制作、吹奏楽部の演奏会など多様な取り組みが実現した。

中川玄洋代表理事は、人口減少により地域活性化のため活動する「プレーヤー（担い手）」も減る一方で、将来にわたり課題は積み上がっていくと指摘。「人はどこかで〝プレーヤー側〟に移る経験をしなければならない。自分の中の火種が燃え上がった時に地域で受け止めてもらえた経験が10年後のプレーヤーの誕生につながる」と見据えた。

県がふるさと納税の仕組みを活用して地域づくり団体を応援する「ギフ鳥」の寄付団体に登録され、活動の寄付を募っている。



若者チャレンジ応援プログラム「とりまね」で実現した書道カフェ

▲「ギフ鳥」はこちらへ

（C）新日本海新聞社　無断複製・転載を禁じます